



教育目標 笑顔追求（腹栄中大好き）

文責 福島英士郎

1 災害に備える。

4月14、16日に発生した熊本地震は県下で大きな被害が発生しました。建物が損壊し多くの方が犠牲になりました。ライフラインが止まる。余震の心配を抱え避難所で生活される。復興の見通しさえもつかない状況であります。

被災者は思う（熊日新聞記事の一部抜粋）の紹介

- 家族と自宅近くの中学校に14日から避難しています。避難所では同級生たちと駐車場整理のボランティアをしたり、小さな子どもの達の遊び相手になったりしています。避難当初は支援物資が少なく、水や食べ物の大切さがわかりました。ふさぎ込まないように笑顔で過ごしています。みんなで協力して震災を乗り越えたいです。
熊本市の中学生
- 14日夜から花陵中に避難しています。避難所では、高校生らとトイレの水を坪井川からバケツリレーで運びました。自宅は食器棚などが倒れて足の踏み場がありません。ゴミを片付けたいけど、すでに集積場はゴミの山、早く回収してほしい。
熊本市の女性
- 14日夜からグラムメ地熊本に避難しています。築5年の家にはひびが入り、子どもも中に入りたがりません。子どもが体調を崩しやすいので、行列のできるトイレだと気を遣います。子どもながらに、水分補給も我慢していますトイレと子ども達の心のケアが心配です。
益城町の女性

本校でも避難訓練や生徒会による募金活動を行いました。みんなで支援の和を広げて行きたいと考えます。

地震の被害を最小限度におさえるお話を紹介します。

地震などの被害を最小限に抑えるには、自助（じじょ）・共助（きょうじょ）・公助（こうじょ）それぞれが役割を果たしていくことが大切です。「自助」、「共助」、「公助」とはどのようなことでしょうか。

- 1.「自助」とは、自分の身を自分の努力によって守ることです。
- 2.「共助」とは、身近な人たちがお互いに助け合うことです。
- 3.「公助」とは、国や県などの行政機関による救助・援助です。

地震による犠牲者の多くは、地震発生直後の建物倒壊や家具の転倒によるものです。地震直後の災害から身を守るためには、自ら守る「自助」はもちろん、近隣の

人々が助け合う「共助」が極めて重要です。一方、消防機関等が救出、救助、消火活動を行う「公助」は、地震直後にみなさん一人一人に対する初期の対応にやや時間がかかります。このようなことから、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」、「これに足りない部分を行政機関が補う」考えを持ち、地震に備えることが必要です。そこで、次のようなことを普段から心がけ、いざというときに適切な行動ができるように日頃からよく考えておきましょう。
○あわてず行動できるように家族と日頃から話し合おう！

地震が発生したとき家族があわてず行動できるように、いざというときに備えて日頃から家族と話し合っておきましょう。

- 1.家の中での安全な場所
- 2.避難路、避難場所の確認
- 3.避難するとき、誰が何を持ち出すかの役割分担
- 4.家族がバラバラに離れたときの連絡方法
- 5.災害時の必需品の備え

○地震が発生した場合、落ち着いて身の安全を確保しよう！

- 1.家や建物の中にいる場合

大きな揺れを感じたら、まず揺れによる落下物から頭を守るため、丈夫な机やテーブルなどに身をかくし、揺れがおさまるまで待ちましょう。揺れが完全におさまるまで身をかくして待ちましょう。

- 2.外出している場合

建物の近くにいると、看板や壁、さらには窓ガラスが落ちてくる可能性がありますので、カバンなどで頭を守り、安全な場所へ逃げましょう。もし、海や川の近くにいる場合には、津波がおそってくる可能性がありますので、とにかくすぐに高台や3階以上の鉄筋コンクリート造りの建物に向かって逃げましょう。

○あわてず火の始末をしよう！

地震により火災が発生すると被害がさらに拡大します。揺れを感じたら台所やストーブなどの火をすばやく消しましょう。

また、地震の後はガス漏れが起きている可能性がありますので、火はつけないようにしましょう。

2 交通安全教室を実施しました。・・・4/15



交通安全 DVD や腹赤派出所の署員さんからの講話、その後に学校から六栄小付近まで自転車の乗り方指導を行いました。交通ルールを守り登校しましょう。

